

みんなで考えよう！

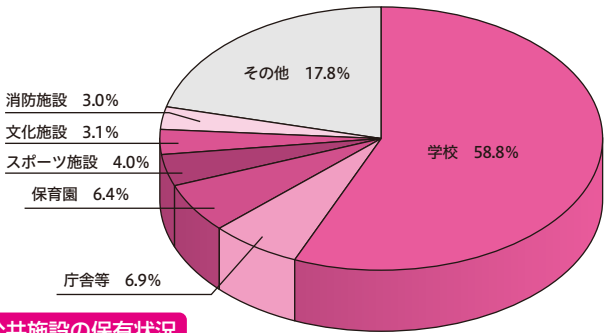
# 公共施設の未来

企画政策課経営管理係 ☎0562・92・8318

vol.6

学校のあり方を考える

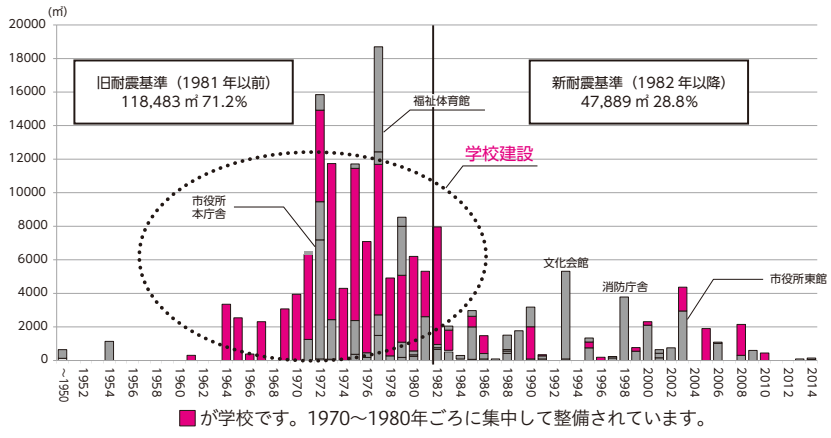
小学校は市内に9校あり、延床面積は6万㎡に上ります。中学校は3校で3万7600㎡です。合わせると公共施設の延床面積で市全体の約6割を小学校が占めます。



## 公共施設の保有状況

公共施設の延床面積は、約16.6万㎡あり、約6割を学校が占めています。他市町の状況を見ると、学校の延床面積の割合は全体の4～5割程度なので、本市は学校の占める割合が高いことが分かります。

## 建築年別床面積 (㎡)



また、1970年代の人口急増に合わせ多くの校舎が建築されています。これらの校舎は、すでに30年以上が経過しており、今後一斉に更新の時期を迎えます。

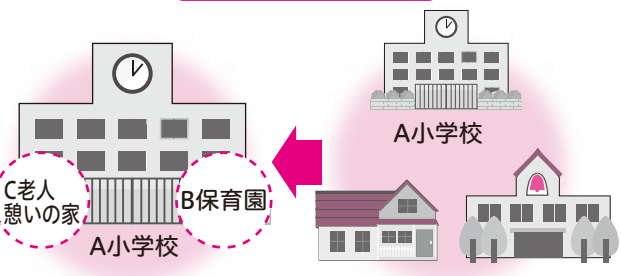
小中学校の老朽化対策は、市の財政運営において大きな課題となっており、学校のあり方や活用方法を考え直すことで公共施設マネジメントは大きく前進するものと考えています。

豊明市公共施設等総合管理計画では、3階層マネジメント法の考え方を参考に床面積の縮減とサービスの維持の両立を検討していきます。

3階層マネジメントでは、利用者の圏域ごとに第1層全域、第2層校区、第3層住区とその階層ごとに適したマネジメントを実践するものです。この中で学校は、第2層の拠点となる施設です。学校自体を統廃合して跡地の有効活用を図ることはもちろんですが、更新時に多機能化し、周辺の老朽化した施設を組み入れて、学校を中心とした地域コミュニティを形成していくことが有効な方策と考えています。



## 複合化・集約化



学校を複合化することで私たちにどのような影響があるのか？

- ### メリット
- 世代間の交流が活発化する
  - 地域住民の見守りによる学校内の防犯効果の向上
  - 多機能化・集約化による利便性の向上
  - 公共施設の総量縮減など

- ### デメリット
- 施設までの距離が遠くなる
  - 学校運営優先のため利用に制約がある
  - 管理区分の明確化や管理体制の確立が必要となるなど

デメリットをできるだけ小さくして、より多くの機能やサービスを残すための方策を一緒に考えていきましょう。